

2022 年度

京都薬科大学 自己点検・評価報告書

2023 年 3 月 31 日

京都薬科大学 自己点検・評価運営委員会

本学では、2021年度に策定した京都薬科大学内部質保証のための方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行うこととし、2022年度に第1回目となる定期点検を実施した。

2022年度の自己点検・評価は、以下の各項目について、主に大学基準協会による大学評価の基準を踏まえて各種委員会、事務局等で点検を行い、その結果について本学の内部質保証推進組織である自己点検・評価運営委員会にて評価を行ったものである。

1. 理念・目的
2. 内部質保証
3. 教育研究組織
4. 教育課程・学修成果
5. 学生の受け入れ
6. 教員・教員組織
7. 学生支援
8. 教育研究等環境
9. 社会連携・社会貢献
10. 大学運営・財務

各項目について、今年度の点検・評価結果から抽出された主な課題や対応、変更点については、以下のとおりである。

1. 理念・目的

- ・2022年度は新カリキュラムの検討を進めており、2023年度に理念・目的の点検を行う予定である。

2. 内部質保証

- ・内部質保証の方針に基づき2021年度に策定された学内自己点検・評価スケジュールに沿って、2022年度に第1回目となる学内自己点検・評価を実施した。
- ・自己点検・評価運営委員会から、今年度の自己点検結果に対する評価に基づき、2023年度に向けて各種委員会・部局等へ改善策実施、検討の指示を行う。
- ・2022年度に受審した薬学教育評価機構、大学基準協会について、それぞれの実地調査での指摘等を参考に、幹事懇談会を通して各委員会への改善対応を依頼しているほか、資料保管等の徹底についても教授会で教員へ改めて通知を行った。
- ・自己点検・評価運営委員会において、自己点検・評価のPDCAサイクルをさらに有効に機能させるために、学内自己点検・評価用のシートを見直し、新たな様式で2023年度は実施することとした。また、内部質保証方針に示した自己点検・評価サイクル図についても見直しを行う予定である。

3. 教育研究組織

- ・新棟建築に向けてシナジー・ラボの位置付けも含めた研究施設・組織の在り方を検討する。
- ・現状、教育研究組織に関して大きな問題はないと考えるが、2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価での結果も参考にしながら、必要に応じて今後の改善を行う予定である。

4. 教育課程・学修成果

- ・2022 年度は新カリキュラムの検討を行っている。2024 カリキュラム確定後、2023 年度は学位授与方針 (DP) および教育課程の編成・実施方針 (CP) について、内容の再点検を行う予定である。
- ・2022 年度に、初年次学修支援の一環として、大学での学びの基本姿勢を共有するために基礎演習にて「大学での学び」を実施した。
- ・2023 年度シラバス作成において、授業内容や成績評価方法についての記述を改善する。
- ・学部について、学修成果に関する評価を目的として「アセスメント・ポリシー」を設定しているが、2022 年度は点検・評価を実施できていない。
- ・2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価の現地調査での指摘事項等も参考にしながら、教育プログラムの改善に向け、2024 年度カリキュラム改訂の検討を行っている。

5. 学生の受け入れ

- ・学生の受け入れ方針 (AP) の見直しについては入学試験委員会において継続的に実施している。
- ・新カリキュラムに関しては、カリキュラムが確定しておらず、引き続き取り組みが必要である。また、新入試制度の導入が検討されており、これに関連して AP の見直しも検討する必要がある。
- ・一般選抜 A・B 方式において、AP3 および AP4 の評価については入学試験委員会で継続的に審議している。
- ・2022 年度入試における入学定員に対する入学者数比率は 1.06、収容定員に対する在籍学生数比率は 1.05 であった。
- ・研究科について、大学院教育検討委員会で薬科学専攻の存続について意見集約を行ったが、収容定員の充足への対応については継続して検討している。
- ・薬学専攻の在籍学生数比率は 1.05 倍であった。
- ・学生の受け入れに係る改善策については、第 4 期中期計画の中で社会動向を踏まえた入学者選抜の検討を掲げ、検討を進めている。また、2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価での結果も参考にしながら、必要に応じて今後の改善を行

う予定である。

6. 教員・教員組織

- ・教員の組織編成については「教員組織規程」に定めているが、組織編成に係る方針の設定については検討できていない。方針を新たに策定するかどうかについては、2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価での結果も参考にしながら、2023 年度以降に検討を行う予定である。
- ・2022 年度に、一部の分野における教員の不足の補充のため、教員選考委員会を設置し、S/T 比の改善に繋げる取組を行った。
- ・女性教員の割合向上については、第 4 期中期計画の推進グループ内で検討を開始した。
- ・教員の年齢構成は、いずれの職位においてもおおむね適正である。
- ・FD に関しては、他大学との合同 FD を実施予定である。
- ・教員・教員組織に係る改善策については、第 4 期中期計画の中で組織の活性化・運営の強化を掲げ、検討を進めている。また、2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価での結果も参考にしながら、必要に応じて今後の改善を行う予定である。

7. 学生支援

- ・学生部を中心に教務部、進路支援部と連携して、「学生支援に関する方針」を策定しており、2023 年度から大学公式 Web サイト、学生便覧及びシラバスにて公表予定である。
- ・就職環境の動向を鑑み、キャリア支援プログラムを構築し、推進している。
- ・学生満足度調査については、1 月中に調査結果を学習支援システムにて公開した。回答内容を精査し、教育・研究・学生支援・施設等の改善に向けて検討しており、学生へのフィードバックを行う予定である。
- ・学生支援に係る改善策については、学生満足度調査の回答率向上に向けて周知方法などの改善を行ったほか、第 4 期中期計画の中で多様な観点からの教育の充実と学生支援の拡充を掲げ、検討を進めている。また、2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価での結果も参考にしながら、必要に応じて今後の改善を行う予定である。

8. 教育研究等環境

- ・教育研究等環境に関する方針を新たに策定するかどうかについて、2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価での結果も参考にしながら、2023 年度以降に検討を行う予定である。
- ・図書館について、現状はコロナ禍対応により、閲覧室利用可能座席数は 140 席、開館時間は 9:00～19:00 としている。
- ・現状、教育研究等環境に関して大きな問題はないと考えるが、2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価での結果も参考にしながら、必要に応じて今後の

改善を行う予定である。

9. 社会連携・社会貢献

- ・社会貢献・地域連携に関する方針を新たに策定するかどうかについて、2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価での結果も参考にしながら、2023 年度以降に検討を行う予定である。
- ・京都橘大学との「学まち連携プログラム」を推進している。
- ・現状、社会連携・社会貢献に関して大きな問題はないと考えるが、2022 年度に受審した薬学教育評価、大学基準協会による大学評価での結果も参考にしながら、必要に応じて今後の改善を行う予定である。

10. 大学運営・財務

- ・現状、大学運営・財務に関して大きな問題はないと考える。

以上